

For all children,
Let's face a child's tear.



国際シンポジウム
チャイルド・デス・レビュー

Child Death Review
2019.2.2-3

Resumé



基調講演**1**

「チャイルド・デス・レビュー
アメリカ合衆国のシステムについて」

テレサ・コビンソン

チャイルド・デス・レビュー

子どもがなぜ亡くなったのかの理解を深め、
子どもの傷害/死亡を防ぐための行動を促進するために

アメリカ合衆国におけるシステムについて
デリー・コピントン (公衆衛生学修士)



1

チャイルド・デス・レビューとは

地域における多職種が集まりにおいて、
一度に一人ずつ、子どもの死について語り合い、
他の子どもの死亡を予防するために、
その子どもの死亡に至った経緯を理解する

子どもの健康と安全に影響を与える、
個人・地域・社会などの様々なレベルの要因
について、データを収集する

そして、多機関連携の改善や将来の死亡を
予防するための行動を起こす

2

”なぜ亡くなったのか”
を理解するために情報を共有するシンプルな
作業である。

しかしながら、多職種で集合知を形成し、将来の死亡を予防するたための責任を共有するとう、複雑な作業でもある。



3

チャイルド・デス・レビュー
(CDR) :
良い変化が起こる場所

不幸なことが起こった
ということから、
予防できることだと
いう変化を生み出す場

全ては
予防の
ために！



4

チャイルド・デス・レビューに 必要不可欠な要素

- 多職種
- 複数の情報源から情報を収集し、子どもの死亡について語り合う
- 批判や責任追及ではなく、システムの改善や死の予防について焦点を当て
- 個々の事例と累積したデータ（死亡、並びに死亡に至らなかった事例も含む）について、バランスを取りながら検討する

5

なぜ、子どもの死亡を検証するのか？

- 1人の子どもの死亡あたり、
- 25人の同様の子ども入院があり
- 925人が救急外来を受診し、**数えきれない**子どもたちが一般外来を受診している



2005年に死亡・入院・救急受診に至った外傷による生涯医療費は、115億ドル近くにのぼる。

SOURCE: Web-based Injury Statistics Query and Reporting System (WISQARS), CDC, 2009

CDC, Vital Signs: Child Injury.
<http://www.cdc.gov/vitalsigns/childinjury/>

7

CDRによってもたらされる付加価値

- 子どもに関する、リアルタイムで緊急度の高い問題に焦点が当たる
- 異なるシステムにいる専門職が交流するようになる
- 全ての死に対して、より早い分析と対応が行われる
- 子どもに関して、連携上、深いレベルでの対話が可能となる
- 家族への敬意がより構築されるようになる
- システムの質の改善がもたらされる
- 専門職からの振り返り（説明）の機会となる
- 予防に向け、質的データと量的データが連結されるようになる
- 予防に向け、必要な人物同士が、迅速に事例に関しての話し合いの場を持つことができるようになる

8



6